研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-30C	A-33C	21-068	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Alcohol Drinking Pattern and Risk of Head and Neck Cancer: A Nationwide Cohort Study
飲酒パターンと頭頸部がんリスク：全国コホート研究

執筆者

Hye Yeon Koo, Kyungdo Han, Dong Wook Shin, et al.

掲載誌

Int J Environ Res Public Health. 2021 Oct 25;18(21):11204. doi: 10.3390/ijerph182111204.

キーワード	PMID
頭頸部腫瘍、飲酒、飲酒行動、危険因子、コホート研究	34769724

要　旨

目的：アルコール摂取は頭頸部がん（HNC）の主要な危険因子であるが、飲酒パターンと HNC リスクに関する報告はほとんどないため、本研究にて検討した。
方法：韓国国民健康保険公団のデータベースを用い、2009-2010 年に登録された 40 歳以上の健診受診者のうち、癌既往のない 11,737,46 人を本研究の対象とした。飲酒状況は自己申告の質問票から収集され、前年の平均飲酒頻度（1 週間あたりの日数）と 1 日あたりの飲酒量（1 回あたりの標準単位［1 単位=アルコール 8g］）を評価するとともに、両者を掛け合わせた平均アルコール消費量（g /週）を計算した。少量から中程度の飲酒でもがんのリスクを高める可能性があるため、平均アルコール消費量により（1）非飲酒者（0g /週）、（2）軽度の飲酒者（0～105g /週）、（3）中程度の飲酒者（105～210g /週）、（4）大量飲酒者（≥210g/週）と分類した。Cox 比例ハザードモデルを使用して、平均アルコール消費量、飲酒頻度（日/週）、1 日の飲酒量（単位/日）による全 HNC および HNC サブタイプ別罹患の調整ハザード比（aHR)および 95%信頼区間（CI)を算出した。なお、年齢、性別、収入レベル、喫煙状況、身体活動、BMI を調整因子とした。
結果：追跡期間（中央値 6.4 年)中、15,832 件の HNC 症例が特定された。HNC リスクは、飲酒頻度とともに直線的に増加し（p-trend<0.01）、0 日/週に対する 7 日/週の aHR は 1.55（95% CI 1.45-1.67）であった。HNC リスクは 1 日の飲酒量に応じても増加したが（p-trend <0.01）、5～7 単位/日（aHR 1.25、95%CI 1.19-1.31）から 14 単位/日以上（aHR 1.26、95%CI 1.13-1.40）で横ばいになった。平均アルコール消費量で層別化すると、中程度および大量飲酒者における HNC リスクは、1 日の飲酒量ではなく飲酒頻度と直線的に正に関連した。HNC サブタイプ別の検討では、口腔、咽頭、喉頭のがんで同様の傾向が観察されたが、唾液腺がんでは観察されなかった。
結論：飲酒頻度は、1 日の飲酒量よりも、HNC、特に口腔、咽頭、喉頭がんの強い危険因子であると考えられる。